

がんセンターNEWS

Aichi Cancer Center News

丹羽病院長就任のあいさつ



愛知県がんセンター
中央病院 院長
丹羽 康正

平成27年4月1日付で院長を拝命しました丹羽康正と申します。伝統ある愛知県がんセンター中央病院長の職は、非常に名誉なことで本当に身の引き締まる思いです。私は昭和58年に名古屋大学を卒業して一宮市民病院、名古屋大学第二内科、愛知県総合保健センター、その後名古屋大学消化器内科に再び戻り、平成21年7月より当院へ着任しました。専門は消化器内科で特に内視鏡診断と治療を専門としております。

当院は昨年開設50周年を迎えました。日本で3番目に設立された研究所を併設したがん専門病院で、歴代の総長・院長をはじめ、在籍した先生方はそうそうたるメンバーであり、業績も素晴らしいものがあります。近年の県の財政難やがん診療の均てん化政策など、当センターを取り巻く環境は厳しくなりつつありますが、事業庁長や木下総長の御尽力、50周年記念行事の後押しによって人・設備の投資がされ、状態は上向きつつあります。

現在、緊急に取り組むべき課題としまして患者数の減少対策です。新規患者さんの獲得、外科手術数の拡大などが必要で種々のシステム改革が必須と思っています。さらなる課題としまして特定機能病院、臨床研究中核病院の取得があります。これらはハードルが高く、人的・物的な拡充に加えて、英文論文数や当院独自の臨床試験などソフト面の課題もクリアしなければならず、病院職員一丸となった強い思いが必要です。また病院と研究所が一体となり、最新のがん研究を国内外に発表してアピールすることも求められています。

一方、当院は都道府県に1か所ずつ指定されている、がん診療連携拠点病院です。がんの標準治療を作成し、実践する、お手本のようながん専門病院を目指しています。患者さんにとって最も適切な標準治療は何かを提示しつつ、新しい診断技術や治療を開発してゆく責務があります。また現状では緩和医療への取り組みは不十分であり、在宅医療・地域医療を踏まえたシステム構築が必要と考えています。インフラ整備も待ったなしですが、理想的ながん医療を提示できる病院を目指したいと思えます。課題は多いのですが、51年目にはいる当センターが発展するように全力で頑張りたいと思えますのでどうぞ宜しくお願い致します。

婦人科部長 就任のあいさつ

再び、縁あって、がんセンターに赴任となりました。医師となり20余年、これまでに名古屋大学、名古屋第一赤十字、がんセンターなど様々な病院で勤務してきました。3月まで、大学で腫瘍分野の教官として、若手医師や学生の指導、臨床・基礎研究に携わり、臨床業務では、腫瘍専門外来や、難易度の高い手術、腫瘍専門医を目指す医師の手術指導などに注力してまいりました。各施設の役割が違うため、比較はできませんが、がんの診断・治療、研究において、センターが優れていること、特に、がん専門病院として、皆の目標が同じ故、スタッフ一丸となって取り組む姿勢のすばらしさを改めて実感しております。着任前は、部長という立場の重責に不安もありましたが、顔なじみのスタッフはじめ、知り合いの患者さんに、温かく迎えていただき、感謝しております。

自分は、常に質の高い医療の提供、患者に寄り添える医療をめざし取り組んでおります。良い医療を提供するためには、「人の力」が最重要だと思います。他科領域の医師、コメディカルとの協力によるチーム医療により、患者さんの利益となるような安全で質の高い医療を行うことができると考えております。(患者さんへのコメントは、病院のホームページに掲載)。今後、1) 腹腔鏡手術など新規部門の治療法も導入、2) 診断、治療、学術の分野での広い知識と応用力を備え持つ婦人科腫瘍専門医の育成、3) 臨床試験によるがん治療の向上、4) 一般市民への正しいがん知識の提供と検診の啓蒙活動など予防の立場からの社会貢献を考えております。部長としては一年生ですが、やる気のある新メンバーとともに、邁進する所存でございます。よろしくご指導くださいますようお願いいたします。



愛知県がんセンター中央病院婦人科部長
(がんセンター研究所腫瘍免疫学部兼任)

水野 美香

資格など

医学博士、産婦人科専門医、細胞診専門医、婦人科腫瘍専門医・暫定指導医、がん治療認定医、母体保護法指定医、難病指定医、臨床研修指導医



新任医師の紹介



婦人科部
山田 英里

平成27年4月1日付けで名古屋大学医学部付属病院より赴任してまいりました。婦人科腫瘍に対する診断と治療を担当させていただきます。患者さん一人一人に合った最善の治療を提供できるよう努力して参ります。どうぞ宜しく願い致します。



放射線診断・IVR部
小野田 結

はじめまして。当部は撮影された患者さんの写真を見て診断したり、様々な医療機器を使って負担の少ない治療(IVR)を提供する事を専門としています。私は主に診断に携わっています。診断・治療のお力になれるように頑張っていきたいと思っております。



頭頸部外科部
萩原 純孝

名古屋大学から参りました。主に入院患者さんの歯科診療と周術期の口腔管理を行っています。口腔内環境を衛生的に保つことが、手術後の感染予防や化学放射線療法の副作用軽減につながります。がん治療の一端を担っていることを意識して診療させていただきます。

～がんセンター開設50周年記念国際シンポジウムを開催しました～

平成27年3月14日（土）にがんセンター国際医学交流センターのメインホールにおいて、「がん細胞の薬剤耐性獲得機構とその克服戦略」をテーマに、国内外の著名ながん研究者を招いたシンポジウムを開催しました。

当日は、がんセンター木下総長のオープニング挨拶に始まり、カリフォルニア大学サンフランシスコ校のフランク・マコーミック博士による開会の基調講演、国内外の各招待演者による講演と参加者との積極的な質疑応答、最後に京都大学の長田重一博士による閉会の基調講演と、重厚な内容のシンポジウムとなりました。

200名を超える国内外の研究者から、がん治療・研究に対する情熱が強く感じられ、今年度開設50周年を迎えた愛知県がんセンターの更なる発展を期待させる、充実した記念行事となりました。



麻酔科部
伊東 仁美

はじめまして。4月より麻酔科に赴任しました。麻酔という
とよくわからないと言われることが
多いですが、患者さんが安心して手術
を受けることができ、また少しでも術
後の痛みから解放されるよう全力で
周術期管理に努めます。よろしくお
願いします。

★次回公開講座のご案内★

日時 平成27年7月18日（土）14：00～16：00

場所 ウィンクあいち（愛知県産業労働センター）
5階 小ホール2
名古屋市中村区名駅4丁目4-38

講演 稀少がんの知識

1. 稀少がんについて
2. 軟部肉腫の診断と治療～早期発見と的確な治療～
3. 頭頸部（口・鼻・首・のど）がんについて

その他 無料・事前申込不要



センター探訪 ⑦

図書室

愛知県がんセンターには、中央病院と研究所のスタッフのための図書室があります。場所は研究所棟北館2階です。開室時間は、年末年始を除く平日の午前9時から午後5時までです。閉室しているときでも、職員やレジデント等は暗証番号で入室可能で、24時間利用できるようになっています。

蔵書は、がんの基礎研究や臨床に役立つ医学書、医学専門雑誌が58,581冊（平成27年3月31日現在）あります。外国雑誌は、ほとんどがオンラインジャーナルで、センター内部のみの利用ですが、約2,000タイトル閲覧できます。

図書室のおもな仕事は、資料の収集、整理はもちろんですが、先生方が必要とする文献が図書室にない場合、文献を所蔵している図書館等を探して、依頼して文献のコピーを入手することです。また、他の医療機関等から、当センター図書室が所蔵する文献への申込みも多く、文献をコピーして発送しています。平成26年度1年間で、依頼を1,731件、受付を3,790件行いました。

診療や研究のためなので、迅速な提供を心掛けて、毎日仕事をしています。



文献を検索しています



文献のコピーをとっています

病院1階アトリウムで月、水、金曜日の午後2時から4時まで開催しています患者さんのための「かのご文庫」は、ボランティアさんが貸出を行っていますが、患者さんから多くの本を寄贈いただきます。その数は全部を棚に並べきれないほどで、古くなった本の代わりに寄贈いただいた本を貸出できるように装備し、パソコンに入力を行って、本を棚に出しています。

「かのご文庫」に多くの本を寄贈いただきまして、本当にありがとうございます。



つぎに棚に出す本を選んでいきます



図書室司書
左より、松永専門員、安田主事、笹沼、名村（アルバイト）

当センターが発信する新しいがん治療標的

研究所 ～分子腫瘍学部～



分子腫瘍学部・室長
長田 啓隆

現在の私の研究テーマのひとつで、新規がん治療標的と期待する遺伝子（正式名称CLCP1）についてご紹介します。（1）この遺伝子は我々当センター研究所・分子腫瘍学部が発見した新規の遺伝子で、この研究は世界に先駆けた研究です。（2）この遺伝子の重要な特徴は、**がん細胞特異的な発現パターン**を示すことです（図1）。いくらがん組織で発現していても、正常組織でも沢山発現しているのは治療標的になり難いのですが、この遺伝子は正常組織での発現はほぼゼロなので、この遺伝子を標的とした治療は、正常組織に副作用を起こさずに、がん組織だけを攻撃できると期待されます。（3）そして、この遺伝子は**がん細胞の増殖能・浸潤能を促進**することが判明していて、例えば肺がん細胞株で、この遺伝子を破壊すると、**がん細胞の増殖能が著明に低下**します（図2）。（4）現在この遺伝子に対する非常に特異性の高い抗体を作成しており、この抗体を使用して、がん細胞を直接攻撃したり、がん細胞に抗がん剤を送り込んだりすることが可能なことが判明しています。今後この遺伝子を標的とする新規のがん治療法を開発して実際のがん臨床への応用を目指していきたいと思っています。

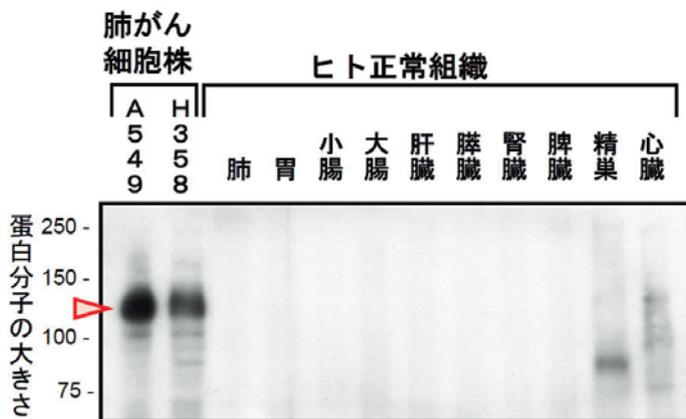


図1. この遺伝子は、がん細胞で著明に発現しますが、正常組織ではほぼ発現がありません。がん治療標的として理想的な発現パターンです。（SDS-PAGE解析）

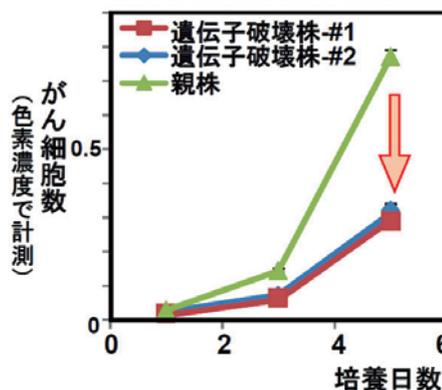


図2. 遺伝子破壊によって、がん細胞の増殖速度が著明に減少します（有意差 $p < 0.001$ ）。この遺伝子が有効ながん治療標的であることが明らかです。

研究員の紹介

研究所 腫瘍免疫学部

腫瘍免疫学部では、生体が持っている免疫の力を利用して、がんを縮小・消失させる新しい治療の開発を目指して研究を進めています。これまでは、がん細胞を殺傷する能力の高い細胞傷害性Tリンパ球（いわゆるキラーT細胞）の研究を主に進めて来ました。昨年は、抗体・補体などの液性免疫を応用した研究にも着手しています。また、乳がん発症に関わる遺伝子の研究をマウスおよび臨床検体を用いて行っています。



後列左から：岡村文子（研究員）、小谷はるる（リサーチレジデント）、権藤なおみ（リサーチレジデント）、三浦理恵（技師）
前列左から：平松可帆（技師）、桑原一彦（室長）、葛島清隆（部長）、太田里永子（研究員）

PACS (画像保管通信システム) が更新されました。

中央病院 ～放射線診断・IVR部～

当院では、放射線検査画像の電子化を順次進め、2009年3月に一部画像をPACS化、2011年2月に読影レポートシステムを導入、2012年3月下旬より放射線検査画像の全面PACS運用（フィルムレス）を開始しました。今回PACSサーバ本体の更新に伴い、PACS及び読影レポートシステムを一新しました。新システムは、現行機能の継承、既存サブシステムとの連携、システムの冗長化を考慮し、旧システムと同ベンダー（Fujifilm SYNAPSE）での更新となり、2015年3月22日より稼働いたしました。

新PACSサーバは過去画像全てをデータ移行、今後の保存画像の増加を考慮し64TBの容量を確保。サーバ本体は障害時にもシステム停止しないようバックアップ機能を有するVM-ware方式（1つのサーバ内で仮想的に複数のサーバを構築）を採用しました。（図1）

また付属システムとして既存の3Dシステム（ZIO station 2）に加え、新3Dシステム（SYNAPSE VINCENT）を放射線診断・IVR部に導入（図2）、さらなる診断支援、手術シミュレーションへの活用を予定しております。



放射線診断・IVR部

部長

稲葉 吉隆

PACS担当

服部 寿史



図1



図2

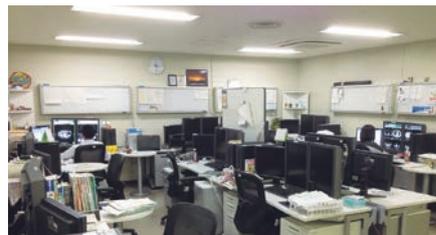


図3

読影端末は3Mカラー2面＋クライアント端末1面構成で、既存の10セットに加え新規で10セットを導入し、画像診断専門医による、より迅速な読影環境を構築しました。（図3）

今回のシステム更新でワークフローの効率化、診断精度の向上を図り、病院全体の診療の質の向上につなげていきたいと考えます。

※当院では他医療施設からの持ち込み画像に関しましては、基本全てPACSに取込み、当院検査画像と同じPACS Viewerで閲覧できるようにしております。当院へ画像情報提供される際は、DICOM形式のデジタルデータをお願いいたします。

診療医の紹介

中央病院 乳腺科部

日本をリードする乳腺科部

乳がんの診断・手術・初期薬物療法・再発治療まで一貫して乳腺科で行い、多くの職種（医師・専門看護師・認定看護師・薬剤師・遺伝カウンセラー・治験コーディネーターなど）が協力して、標準的治療から最先端の治験・臨床研究まで、日本をリードする医療をすべての方に提供しています。特に遺伝性乳癌への対応（リスク低減手術や新規薬剤開発）は先駆的に取り組んできました。乳房に関する心配事があれば、いつでも気軽にご相談ください。



後列向かって左から
 医長 服部正也、医長 石黒淳子、医長 久田知可、レジデント 水野愛弓
 前列向かって左から
 副院長兼乳腺科部長 岩田広治、医長 澤木正孝、医長 吉村章代、
 レジデント 瀧由美子

採血支援システムを導入しました。

中央病院 ～臨床検査部～



臨床検査部長
谷田部 恭

臨床検査部の採血室で採血される患者さんは1日平均350名です。そのうちの約9割は外来患者さんで、その多くが診察時に主治医から血液検査結果をお聞きになられています。そのため午前中の早い時間帯に患者さんが集中し、多い時は朝8時30分の採血開始時点で70名ほどの患者さんに採血を待ついただくこともあります。

昨年度新しく導入した支援システムでは、患者さんに採血の進行状況がわかるように採血番号などがモニター表示できるようになり、採血までの時間が把握しやすくなり待ち時間でのストレスの削減に寄与したと考えています。また、採血に必要な容器（採血管）の用意がスピーディーになり、準備された採血管と患者さんとの照合もバーコードを使用して正確にできるようになりました。さらに、採血台に設置されたモニターでは治験採血等の特殊な採血情報や採血管不足のチェック、患者さんの大切な情報（たとえば「アルコールに弱い」、「テープの接着剤にかぶれる」、「化学療法点滴を受けやすくするため血管の選択をしなくてはならない」、「同姓同名あり」など）の確認も行うことができ、今まで以上に個々の患者さんに応じた採血ができるようになりました。

但し、いくらシステム化が進んでも採血する側の私たちは「目」「耳」「声」による確認は大切だと考えています。今後も患者さんのお声を大切にして安心・安全な採血室を目指していきたいと思います。



採血案内モニター（上）と、採血用整理券発行機（2台）



採血室の様子
モニター付採血台（手前）と自動採血管準備装置（奥）

スタッフの紹介

中央病院 放射線治療部

放射線治療部はレジデントも含め8名の医師でいろいろながんへの放射線治療を担当します。治療装置の進歩で高精度の放射線治療が可能となり、治療効果は大幅に改良され副作用も減らせるようになりました。一方で治療計画や品質管理が複雑になってきており技師、医学物理士、外来看護師との質の高いチーム医療はより重要となっています。よりよい治療を患者さんに提供するため皆で力を合わせて頑張っています。



後列左から
富田 夏夫（医長）
小出雄太郎（レジデント）
立花 弘之（医長）
伊藤 誠（レジデント）

前列左から
吉田 舞子（レジデント）
牧田智誉子（医長）
古平 毅（部長）
木村 香菜（レジデント）

第46回日本膵臓学会大会 市民公開講座のご案内

日時 平成27年6月13日(土) 14:00~16:30
 場所 愛知学院大学名城公園キャンパス キャッスルホール
 参加費 無料(定員300名) ※事前申込推奨
 テーマ 膵がんを光をあてる

当センターから多数の医師が講演を行います。
 興味がある方は是非ご参加ください。

詳しくは第46回日本膵臓学会大会のホームページへ
<http://www.congre.co.jp/46jps>



AICHI CANCER CENTER NETWORK	
パープルリボン 2015 in名古屋 膵がん克服を目指して	
— プログラム —	
14:00-14:05	開会挨拶 膵臓病 膵臓がん 膵臓がん 膵臓がん
14:05-14:15	パープルリボン活動について 膵臓病 膵臓がん 膵臓がん 膵臓がん
14:15-14:30	IPMNI膵臓癌登録がん早期診断の最新動向 膵臓病 膵臓がん 膵臓がん 膵臓がん
14:30-14:45	外科療法と化学療法の最新動向 膵臓病 膵臓がん 膵臓がん 膵臓がん
14:45-15:15	膵がんの最新治療動向の最新動向 膵臓病 膵臓がん 膵臓がん 膵臓がん
15:15-15:35	膵臓病治療の最新動向 膵臓病 膵臓がん 膵臓がん 膵臓がん
懇話会(15:35-16:00)	
15:35-16:00	懇話会(15:35-16:00) 膵臓病 膵臓がん 膵臓がん 膵臓がん
16:00	閉会挨拶

医療連携室のご案内

対応時間	月曜日～金曜日 午前9時00分～午後7時00分
電話	052-764-9892 (直通)
F A X	052-764-9897 (24時間稼働しております。)
ホームページ	http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/ 中央病院トップページ右手にある「医療連携」のバナーをクリックしてください。 利用の手引や様式など、詳細を掲載しております。

外来診療案内

受付時間	午前8時30分～午前11時30分 (自動再来受付機による受付は午前8時からできます。)
休診日	土・日・祝日、年末年始
診療科	消化器内科、呼吸器内科、循環器科、血液・細胞療法科、薬物療法科、頭頸部外科、形成外科、呼吸器外科、乳腺科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、婦人科、皮膚科、眼科、放射線診断・IVR科、放射線治療科、緩和ケア科 (精神腫瘍科・リンパ浮腫外来・ペインクリニック)
外来診療担当医一覧	毎月1回、月初めに更新しています。詳しくはホームページをご覧ください。
休診情報	お電話またはホームページでご確認ください。

※再診予約制：診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。052-764-2911(直通) 午前9時～午後5時(土・日・祝・年末年始を除く)
 ※セカンドオピニオン外来は、全科で対応しています。(完全予約制・自由診療)
 ※精神腫瘍科は、予約のみの対応です。

交通のご案内

★公共交通機関のご案内

地下鉄利用 名城線「自由ヶ丘駅」2番出口から徒歩7分
 市バス利用 基幹2系統・星丘11系統「千種台中学校」下車徒歩4分

★車でのアクセスのご案内

- ◎一般道路
 本山交差点から北へ約10分、平和公園の北西
- ◎高速道路
 東名高速道路「名古屋IC」から西へ約15分
 名古屋高速「四谷出口」から北へ約10分

※詳しくはホームページをご参照ください。



愛知県がんセンター Tel.(052)762-6111 Fax.(052)764-2963
 〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号 ホームページ <http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>

愛知県がんセンター

検索